

専務理事	事務局長	係 長	係 長	係 長	主 任	主 事	主 事	報告者

経営発達支援計画事業評価委員会 報告書

会議名	経営発達支援計画事業評価委員会（令和２年度実施事業の評価）
日 時	令和３年５月２６日（水） ９：５５～１１：４０
会 場	焼津商工会議所 ２階１・２会議室
出席者	委員長 清水誠一 氏(焼津商工会議所 副会頭) 委 員 岩本 勇 氏(静岡福祉大学社会福祉学部福祉心理学科教授 博士:総合社会文化) 委 員 大本裕一 氏(焼津市経済部 経済部長) 委 員 畑 昇 氏(学識経験者・前委員長) 委 員 村松悌三朗 (焼津商工会議所 専務理事) 中小企業相談所職員 ７名
会 議 内 容	１ 委員長挨拶 R２年は、事業を行う上で新型コロナウイルス感染症の影響を受けている。そのあたりをどう考えるか評価をお願いします。 また、現計画の最終年となるため３年間の評価を頂きたい。 ２ 経営発達支援計画事業の説明（事務局） 令和２年度経営発達支援計画事業の概要説明 経営発達支援計画事業の実施内容、目標値に達しなかった項目についてその要因等について説明 質疑応答 特になし ３ 総合評価の基準について 令和２年度経営発達支援計画事業の総合評価を行う上での基準について 新型コロナウイルス感染症の影響があるがそこをどう考慮するかを協議 前年同様に１０％引き上げをするのは厳しいのではないかと また、下げるのはおかしい。今回は、前年据え置きでよいのではないかと。 評価基準を上げて、注釈をコメント欄に記載する方法もある。 一般的には８割出来ていれば納得感があり評価してよいのではないかと 毎年基準を引き上げなければならない等決められたルールはない 前年上げたからといって無理にあげることはない 今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、前年度据え置きで、事業ごとに設定された個別目標３１項目のうち８０％以上Ａ評価があれば総合Ａ評価、７０％以上８０％未満の場合総合Ｂ評価、７０％未満の場合総合Ｃ評価とする。 ４ 令和２年度事業に対する評価（項目別の個別評価と総合評価） 事前に提出頂いた評価に基づき委員長が一つずつ評価を進める ５人の審査委員の判断が概ね一致している評価を採用する。 I 地域の経済動向調査に関すること A評価 ５ C評価 １ ６項目とも評価の一致はなかったがいずれも４対１であったため多い方を評価とした。

II 経営状況の分析に関すること A評価 2

2項目とも評価は、全員一致となった。

III 事業計画策定支援に関すること A評価 2

2項目とも評価は、全員一致となった。

IV 事業計画策定後の実施支援に関すること A評価 1 C評価 2

3項目のうち1項目が全員一致、2項目について4対1の評価であったため多い方を評価とした。

「目標達成には届いていないということだが、現状のコロナ禍のなか、緊急性や重要性に応じた支援が行われている。今回の外部環境変化とその対応から考えると、むしろ目標を修正することも視野に入れることも検討すべきであろう。」という意見があり、今回は目標値に達していないためC評価以下となる現状の基準で行うが次の計画からは委員の審査基準の見直しを検討する。

V 需要動向調査に関すること A評価 2 C評価 2

4項目のうち1項目が全員一致、3項目について4対1の評価であったため多い方を評価とした。

VI 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること A評価 4 C評価 4

8項目のうち2項目が全員一致、6項目について4対1の評価であったため多い方を評価とした。個別相談会については、コロナ禍商談会の規模縮小により職員の対応で完結したため対象から除外した。

①地域経済の活性化に資する取組 A評価 1

3項目のうち2項目は、コロナウイルス感染症拡大による中止となったため対象から除外しました。1項目は4対1の評価であったため多い方を評価とした。

②他の支援機関と連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること A評価 1

3項目のうち2項目は、コロナウイルス感染症拡大による中止となったため対象から除外しました。1項目は2対1の評価であったため多い方を評価とした。(2人は事業がコロナウイルス感染症の影響で半分の開催であったため評価除外とした)

③経営指導員等の資質向上等に関すること A評価 4

4項目とも4対1の評価であったため多い方を評価とした。

評価結果 対象 31項目 A評価 22項目

C評価 9項目

総合評価は、全31項目中22項目がA評価で71.0%となり総合評価の基準に照らし令和2年度経営発達支援計画事業の総合評価はB評価とする。

今年度は、当初予測していた事態となったところでもやれるべきことはやっており、商談会等も成約に結びついた面もあるし、相談件数も多かったというのは、商工会議所として小規模事業者役に役立っていると思える。1年を通して活動はできていた。

5 経営発達支援計画事業3年間の講評

当初は、3年間の計画の中で目標達成に行くかという不安もありましたが頑張ってくれました。

岩本先生が課題としている「対象企業の具体的なイメージを持つことが出来なかった」という点を考え小規模事業者への支援を引き続きもっと行ってもらいたい。全体としては、評価できるものだと思います。

3年間の振り返り商工会議所の皆様大変な努力をされていると思います。

今後につなげるという方向性からすると今現在の取組が包括的とかワンアクションの中で取り組まれている。

さらに発展させるという事であれば、まず会員の皆様の業種業態を類型化、その業界の中での立場いわゆるポジショニング、例えば、下請なのか元請なのか、業界の競争上のリーダーなのかチャレンジャーなのかシーンが見えるとより結果が出しやすくなる。

販売に対する結果を出すとなるとチャネルリードアイテムを考えていく必要がある。

例えば水産加工業を見た場合、そこで生産された商品を販売する。卸売市場の流通システムに乗せていく場合と小売業市場に行く場合がある。卸売市場にしても小売市場にしても大量生産、大量消費となり行き着く先は価格競争となる。

焼津の産業で最も潜在的ポテンシャルのある伝統商品を高付加価値で販売するというチャンネルで製品開発する必要がある。その場合最終消費者のソッキカが必要となる。消費者と生産者のコミュニケーションの仕組みを開発するのかわいいのではない。いくつかの類型を作る。例えば問屋・バイヤー向けの支援、または、高リスク型の支援、または、最終消費者との情報交換システム支援などいくつかの分科会があればよい。

色々な事に取り組んでいただき、また相談件数も増えている、企業のサポーターとしての役割を果たして頂いている。

調査であつたり相談体制であつたりするがそれぞれの取組の関連性が見えづらい。景況調査の結果として、どういう支援を打ち出していく必要があるか、焼津の産業がどういう現象であるのか等具体的につかめていない。

ここができないと良い支援ができない。

昨年の商談会で気になることは、6社参加し結果2社がバイヤーに選択されているが、売りたいものを売り込んでいるような発想に見えている。売りたいものではなく買ってもらえるものを集める、作ってもらわなければいけない。こういうサポートは難しいと思うがこういう視点を入れていく必要がある。買ってもらえるもの、求められているものに対するアプローチを考えていければよいのではないか。

3年間の伸びを期待しながら見ている。

鰹・鮪をよく知っている市内の水産業者がいいものを作ろうとしている印象はすごくあるが、他所へ出かけた時に焼津の商品が他の地域の商品と並んでいるときに手に取ってもらえるか。

焼津の中でのモノの評価は頑張っているからわかるが、それが売れるというか何を感じて手に取ってくれるか気になっている。定例的な指導から一歩抜けていくためには、本当に手に取ってもらえるような商品になっているかが次の課題となる。

バイヤーに見てもらえるが成約に至らないのなら他の地域のものと比べ焼津のものはどうなのかしっかり意見を頂きそれを反映させる。

伝統的商品を作っている地域であるので、その魅力を感じ取ってもらうためにはどうしたら良いのか。焼津の魚を差別化するには外からの評価が必要となる。

目標数値だけで見ていくというのは中々難しい。小規模事業者の方々に対する支援というのは事業者自身の技術とか開発意欲だとか難しさがあるなか、地場産業を伴走型支援で取り組んでいることは評価ができる。

委員の方から頂いたご意見は次の計画の中で取り組んでいく。

6 第2回経営発達支援計画事業（令和3年4月～令和8年3月）の概要説明

令和3年3月に大臣認定を受けた計画書の説明

地域の現状及び業種別の課題

課題から想定される長期的な振興の在り方

経営発達支援計画の目標と方針

目標達成に向けた取組の説明

質疑

現在の計画の中で、フォローアップ支援が単年度で終わってしまうものが多いという報告の中で目標クリアに向けどう取り組むのか

スケジュール表を企業ごと作成し管理、計画的に実行できるようにする。

企業ごとに類型化し計画進捗状況、売上状況の変化に応じ、支援回数等を考えていく。販路開拓についても、3年間の事業講評の中で頂いたご意見を反映し、計画の中に入れていきたい。

	7 第2回計画における委員審査基準について 第2回計画における総合評価基準について 現在の審査基準、評価基準の見直し案を委員長と事務局で精査し委員の皆様の任期中（6月末）に提示し、ご意見を頂く。 課題 審査基準 A評価とB評価の判断が難しい（どちらも目標クリアとなっている） 目標設定値のクリアレベルがわからない 目標に達していなければC評価以下となる E評価は目標に対するアプローチであるため、D評価と合わせられるのではないかとC評価も同様に成果の改善と表現とれる 総合評価基準 毎年上げる方がよいのか BがポジティブなものならAとBの合計で9割とかでも良いのではないかとBばかりとならないためそのうちAが何割以上必要でも良いのかも 共通課題 評価の段階数は妥当か3段階、5段階 8 その他 第2回計画は、市と共同で申請・認定を受けているため、現在外部委員となっている経済部長は内部委員となる。新たに外部委員を1名追加し6人の委員体制となると思います。 今後のスケジュール 6/ 8 正副会頭会議 評価委員会の報告・承認 6/28 常議員会・通常議員総会への報告 7/ 1以降 焼津商工会議所ホームページへの公表 令和3年6月1日
--	---